

### Ⅲ 底魚漁場座談会

共 催 海外トロール協会  
水産海洋研究会  
海洋地質研究会

日 時 昭和40年9月3日 午後1時～5時

場 所 全国町村会館別館

コンピーナー 宇 田 道 隆 (東京水産大学)

話題および話題提供者

大西洋トロールの現状と将来の問題点

岡 田 立 三 郎 (水産庁調整2課)

トロール漁業と海底の研究

新 野 弘 (東京水産大学)

西アフリカ底魚漁場と海況

宇 田 道 隆 (東京水産大学)

西アフリカ漁場経験談

和 田 光 太 (日魯漁業)

福 井 徹 (日本水産)

中村正路海トロ常務開会挨拶につづいて、海トロール協会真田健三会長挨拶に引続き、水産海洋研究会宇田、海洋地質研究会新野両会長の挨拶が行なわれ、大要のような話題提供と質問応答があつた。

#### 1 大西洋トロール限状と将来の問題点

岡 田 立 三 郎 (水産庁調整2課)

アフリカトロール漁業では、サワラ沖漁場に日本船30隻ぐらい稼働しており、ソ連船(大型の2,000～4,000トン級)40隻ほども稼働と聞いている。イタリア、ギリシア船なども入る入会漁場で、スペイン船(小型1艘曳きおよび2艘曳き200隻もまじえ、北緯20°～26°の大陸棚で、モンゴイカ、タコ、タイ類(サクラダイなど)の好漁場である。資源はどうか、今後どう推移するかが問題で、水産庁来年度予算で調査船を出したい。モンゴイカは大たい1年生で余り心配ないともいうが、値のよい大形が集中的にねらわれ、中小形は主な対象にならないがこのイカは日本内地、東シナ海にも棲息し、生態的に相当浅い所で卵を産み育つといわれ、産卵群をトロール船で乱獲しないように留意しないと将来に資源の減少が考えられる。次にマダイの類は産卵は日本漁船の曳けない岸近くの浅所といわれ、1年生れと推察される。

サクラダイ、マダイを表示してみると、統計上で小形化し、量そのものも大ぶん減つておるの

で心配する向きも多いが、日本船は浅所～深くて70～80 m深を曳いており、それより深い所にタイ類と稚魚もいるとのニュースもあり、それほど心配もいらぬとの意見もある。イカ、タコ、タイを目的とする北西アフリカサワラ沖の集中操業海域には22隻が認可され、1年～1年半さきには出漁漁場を分け合い、資源枯渇のおそれもあり、このトロールの将来について将来協議を必要とするであろう。外販問題については日本トロール漁業は莫大な消費量を持ち、安定していて、世界に比類ない特質をもつて今日まで発展して来た。しかし70～80隻になると国内、国外(1)アフリカ沿岸、(2)欧州諸国)の市場が問題になるだろう。

例えば、英国系のナイジェリアには今までアジ、サバが相当量はいっていたが、対日輸入大巾制限も考えられる。動物蛋白不足のため比較的安価な日本のトロール「青物」を受入れ、人口7000～8000万人、首都Lagos及びPort Harcourtを中心に伸びており、5～6坪のプレハブ簡易冷蔵庫を建てて、日本冷凍魚の普及をはかつて来た。アフリカ諸国市場にどれだけ多量に販売できるかは疑問。というのは港湾施設が大へん悪く、荷受入れ、輸送路必ずしも定期的に行なわれず、魚価が採算的に必ずしも合わない。将来「青物」だけでなく「赤物」も希望されようが、先方の希望通りの量を充分輸入供給し得られまい。

キンマダイ、青物処理から始つたが、ケープタウン沖にHake(メルルーサ)が漁場開発され、比較的大型船が集つてくるようになった。英国、スペイン、豪州などにメルルーサの販売網ひろがつたが、スペインは日本物受入れに相当制限があり、OECD加盟国は自由に貿易していても、非加盟の日本などには制限があり。メルルーサは大へん需要あるのであるがスペインは才2次大戦中立国、内戦に明け暮れたが、漁業に力を入れ、大型船建造して、南阿のメルルーサをもちかえつている。日本でもメルルーサ、カレイ、赤魚など国内で外国価格以上にさばけるようになってきた。英国ではメルルーサはかなり消費され、欧州、その他でもメルルーサの消費はある。国内市場は明るいが国外市場にも熱意をもつて打開していく必要がある。アフリカだけでなくアルゼンチン沿岸その他の開発にも目を向けて出してもらいたい。

質疑討論、新野：水産庁東光丸によい報告がある。委託しているか。岡田：来年度アフリカ西岸調査、その次に大調査船(2,600トン)できれば6カ年がかりで新漁場開発する。香川泉水試：ボルネオ沖にエビ漁場開発中。系統だつた資料(各社を含み水温、水深、底質など、抽出された船で予算化)を。矢部博：水産庁で連続資料収集、速トロ調査研究組織体制これまで全く不備であつた。本年漸く農林省遠洋漁業研究所(清水)発足の運びで、速トロ部門が作られよう。

## 2 トロール漁業と海底の研究

新野 弘 (東京水産大学)

日本でも近年北西大西洋でトロール試験操業中であるが、ソビエツトもウツホール沖でトロール船5～6隻操業しており、比較的深所の大陸斜面で大型のロブスターが多量に漁獲されている。6年前アルゼンチン沖のトロール漁場(以前Discovery号調査)を1週間大洋漁業船に乗つて底質等調査、メルルーサがたくさん漁れ、タラバガニも相当漁れた。南米東岸北部は東光丸